

台湾と柿原文化交流について

今年も恒例の柿原納涼盆踊り夏祭り大会が八月五日（土）の夕方から催されました。

今年で第二十八回を数え、熊本市の“火の国まつり”の協賛ですが、特に今回は、台湾から一貫道の陳徳陽前人様、廖永康老点伝師様、葉樹栄点伝師様、林秀玉点伝師様、林秀宜点伝師様を含めた三十名様の文化交流団が参加されこの夏祭りも一層賑やかなものとなりました。

一貫道の教えは、戦前、台湾が日本から教育を受けた内容を現在も続けて実行しているということです。その中身には、昔の教育勅語の中の夫婦会和し朋友合信し或いは両親、祖父母、先輩、ひいては御先祖を大切に敬りという精神的な教育であると聞かされます。現に、本年六月に柿原地区の有志が訪台した際、各道院にお伺いし、道院の前人様のお詔もこのような内容だったとお覚えています。

毎年盆踊りの日には、午後八時頃夕立がやって来るので心配しましたが、この日は午後三時頃大きな雷鳴と共に凄い雨がどっと降り出しびっくりしました。丁度会場の柿原公園では準備中の人もありましたがずぶ濡れになりました。しかし、午後五時過ぎには、空もすっかり雲が切れ絶好の夏祭り日となりました。午後六時二十分、柴田末義会長が先導して台湾一貫道文化交流団が入場しました。

男性一列女性一列の二列縦隊、胸には真っ赤な花章を付けて整然と歩きます。

この隊列が会場の明生園席、つばき学園席、はなぞの学苑席の前を通る時、双方から握手の手が伸び、大変和やかな光景でした。

台湾一貫道文化交流団が来賓席に着くと、いよいよ台湾獅子舞の行進です。

子供獅子の中には、特別訓練を受けた柿原子供会の有志が入って熱心に動いています。

指導者の中山慶生さん、黄野健道、梨圭御夫妻も大変だったろうとお察します。又柿原子供会の田上君、永島君、宮崎君、古閑さん、古閑君の熱心さにも頭が下がりました。

前半五十分程全員総踊りを楽しんだ後、中盤に入り、今回主行事の「台湾、柿原文化交流行事」が始まりました。

台湾獅子舞（含柿原子供会）の勇壮な舞に続き柴田末義会長の歓迎の挨拶がありました。

続いて一貫道交流団を代表して、陳徳陽前人様の挨拶がありました。この時の通訳は黄野梨圭御婦人でした。又この時、台湾一貫道文化交流団より明生園、はな

その学苑、つばき学園への記念品の目録贈呈式があり、はなぞの学苑の長藤苑長より謝辞が述べられました。三つの園では、夫夫キャスターはワゴン車、テレビ、カラオケセット、パソコン、放送設備等園の人人の欲る物が贈呈され、感謝しながら日常使用しているとのことでした。

後半に又総踊りがありましたが、一貫道交流団の方も輪の中に入り笑顔で踊っておられるのが印象的でした。

午後九時には、参加者待望の福引きが行なわれ、一貫道交流団の方も景品が当たっておられたようで係もホッとしました。

翌日の熊本日日新聞にも写真入りで記事が載り、その後他の町からの問い合わせもあり、台湾との交流の輪が広まりつつあります。

尚、この文化交流は、盆踊り大会だけにとどまらず、その後黄野御夫妻宅に宿泊してをられた一貫道交流団の為に柿原女性部が弁当や夕食作りを手伝うなどしてより交流を深めました。一貫道交流団が離日する前夜は盛大なお別れパーティーが催され、町内役員はもとより隣近所の住人も集まりました。

この日は両国の挨拶もありましたが、美味しい料理の日本と台湾の交流になり、参加者は両国の味を堪能しました。

楽しいパーティーが終わりに近づくにつれ、別れの淋しさから両国共涙を流し抱き合う場面もみられました。

同じ席に座り、同じ食物を食べることにより両国との差は縮まり、心と心の触れ合いが深まり、より理解し合えるよりになりました。

私達日本人は、日本人の心は持っていると自負していましたが、他の人人、他の国々への思いやり、慈悲の心の不足に気付かされました。

いろいろな意味で私達の心を成長させてくださった一貫道交流団の方方に深く感謝の意を表します。又この触れ合いがいついつ迄も続くよりには、一大イベントもさることながら今後は、お互い肩の力を抜き日常の心、日常の生活で交流し合うことだと思います。

この機会を与えてくださった黄野健道 梨圭御夫妻に感謝してペンを置きます。

二〇〇六年 八月二十一日

柿原女性部長

山中 信子

【文薈篇】海外來鴻

台灣與日本柿原文化交流

柿原婦女會長 山中信子・文
詹玉丁點傳師・翻譯

日本柿原慣例的納涼盆踊（盂蘭盆會時舉行的民間舞）夏季祭典，今年亦於八月五日（星期六）傍晚舉辦。

今年已經是第二十八屆，雖然是在日本九州熊本市的「火之國」祭典之後，但是這一次不同於往年，由於台灣來的一貫道陳德陽前人、廖永康老點傳師及葉樹榮、林秀玉、林秀宜三位點傳師等三十名組成的文化交流團，參加此次的夏季祭典，而顯得更加熱鬧。

二次大戰以前，台灣受日本的教育，以前日本「教育敕語」中的文句「夫婦相和、朋友有信、對父母、祖父母前輩，進而對祖先的重視，精神上的教育」，這是我所聞之事，其內容現在還是繼續實行，這是得於今

年六月柿原地區的有志者，請示道院的前人指示一貫道教義亦有如此之內容。

每年的夏季祭典，在傍晚八點左右必有西北雨的降落，所以很擔心。今年亦如往常，下午二、三點，下了一場大雷雨，在柿原公園的會場內，正在準備的工作人員都被大雨淋透了，但是過了五點後，空中的雲散開，變為最適合祭典日的天氣。下午六點二十分，柴田末義會長引導台灣一貫道文化交流團團員進場，乾道、坤道各排一列，胸前佩著大紅的胸花，整齊的隊伍前進，當通過會場的「明生園席」、「茶花學園席」、「花園學苑席」時，雙方伸出雙手，互相握手，場面和睦、溫馨感人。台灣一貫道文化交流團進入來賓席後，隨後

舞獅團列隊進場。

舞獅團中有受過特別訓練的柿原少年隊，及熱心人士參與活動。是由中山慶生先生、黃野健道壇主、梨圭伉儷等熱心的指導。團員中有小朋友會之田上君、永島君、宮崎君、古閑君等熱忱的參與，讓大家非常欽佩。前半段約五十分鐘是全體同樂，隨即開始此回的主要行程「台灣、柿原文化交流」。

台灣舞獅團（含柿原少年隊）勇壯的舞步，繼而柴田末義會長致歡迎詞，之後代表一貫道交流團的陳德陽前人致詞，由黃野梨圭夫人翻譯，同時台灣文化交流團致贈「明生園」、「花園學苑」、「茶花學園」紀念品後，由花園學苑的長藤苑長致感謝詞。三個學園各致贈「底部有可移動車的電視，全套卡拉OK、筆記型電腦、放送設備等，」各學園的學生、人人都希望能在日常生活中用得到手的東西。

最後全員一齊跳舞，一貫道交流團團員都進入場內中，大家都面帶笑容在一起舞蹈，讓人印象深刻。晚上九點，大家所期盼的摸彩終於登場，一貫道交流團團員亦有人摸到獎品，讓大家非常開心。

第二天的「熊本日日新聞」刊出了附有相片的紀事文（消息）刊出後，其他鄉鎮的人士也有問起此事，對台灣的交流愈有密切的感覺。此次文化交流，不僅是針對盆踊大會而已，爲了加深相互交流的情誼起見。會後還於黃野伉儷家，由柿原婦女會所設的晚餐，在一貫道文化交流團要離開日本的前夕，舉辦了盛大的晚會，鎮內的官員及鄰居亦來參加，兩團皆有溫馨感人的致詞。美味的素食料理亦是日本與台灣文化交流中的一個項目，讓參加者品味兩國不同口味的美食。快樂的晚會亦接近尾聲，離別時兩團的團員都依依不捨的流淚，並出現相互擁抱的溫馨感人畫面。

同桌進餐後，拉進了兩團團員之間的距離，大家手牽手心連心，相互理解照應。雖然我們的人心在改變，對他人、對別的國家的人之體諒，是否感覺到慈悲心之不足，各種因素讓我們的心慢慢在成長。在此向一貫道交流團的前賢大德們深深致謝！希望借此次的文化交流，互相勉勵，相互成長，共同邁向一貫道更高的里程碑。